

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1194600134		
法人名	有限会社 ライフ・ワン		
事業所名	グループホーム スワン		
所在地	埼玉県深谷市東方2873-5		
自己評価作成日	平成 31年 2月 3日	評価結果市町村受理日	令和元年5月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/11/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社プログレ総合研究所
所在地	埼玉県さいたま市大宮区大門町3-88 逸見ビル1階
訪問調査日	平成31年 3月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設の理念でもある”ゆっくり・一緒に・楽しく”を利用者様と職員全員で共有しており日々の日常生活を送っている。アットホームな雰囲気の中、その人らしく安心して毎日が過ごせるようケアに取り組んでいる。
また、残存機能の維持ができるように無理のない範囲で日課を作っている。
食事の面は3食、職員の手作りで利用者様からのリクエストがあれば応えている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1ユニットからなる広々とした造りの明るい事業所である。ゆっくり、一緒に、楽しく、の理念を基に、利用者一人ひとりのペースに合わせた支援をしている。家族や訪問者からは「利用者の生活がとても落ち着いていますね」との声が聞かれる。職員はどのようにしたら利用者が自宅とは異なる共同生活の中で楽しく過ごせるかを考え、折に触れて困っていることはないか、やって欲しいことはないかと聞いている。家族には前回の面会時と比べて何か変わったことは無いかと聞くようにしている。リビングの他に利用者が親しみを込めて「二階」とよんでいる広いフロアがある。リビングでの食事の後は全員がそこに移動して、ソファや椅子に座りつろいでいる。庭にはベンチが置かれ、季節の花木が植えられている。利用者は最近植樹された桜の木の成長を楽しみにしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設の理念でもある”ゆっくり・一緒に・楽しく”に基づき支援している。	ゆっくり、一緒に、楽しくを理念に掲げて、利用者のペースに合わせた支援をしている。職員は利用者の日常会話の中から気づいた事を共有し、一人ひとりがゆっくり落ち着いて暮らせるように支援をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ゴミ出しと一緒に入ったり近くの寺院に散歩に行ったり神社に初詣に行き交流し近所の方と会話をしている。	自治会に入会し、清掃行事に参加している。玄関前のベンチで外気浴をしていると、近所の方が声をかけて下さる。キーボードやフラダンスのボランティアが来訪し、看護学校生の実習生も受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議などで認知症の理解を深められるように支援している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の開催時に自治会長、地域包括センター等、実践状況を報告し意見交換をしている。	地域包括支援センター職員、自治会長、民生委員、家族の出席を得て2か月に1度開催している。利用者の生活状況や行事の報告と共に、感染症の予防や災害時の近隣の協力体制について話し合われている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	利用者の半分が生活保護者であり、サービス計画書の提出や認定情報など密接の関係を築いている。	市の窓口へは書類提出や相談、質問に出向いている。大里広域連合からはファックスやメールで感染症予防や災害時対策についての情報を得ている。年に1, 2度担当職員が来訪している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないのは当然であるが、玄関の施錠は安全を守る上で内側から施錠しているが利用者も開けられるようになっている。	利用者が不穏な様子の時は、怒りや落ち込みの感情がなくなるまで一対一で寄り添い、ゆっくり話を聞くようにしている。気分転換に買い物に出かけることもある。車椅子利用者にはなるべく自分でこいでもらうようにしている。	身体拘束をしないケアについて、今以上に職員の意識を高め実践できるように「身体拘束防止委員会」を設け、定期的に研修を行いたいと計画している。早期に実行されることを期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束や虐待はしない、利用者の変化を見逃さないという意識を持っている。ストレスが溜まらないようコミュニケーションをとっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員会議の際に一部として取り入れ話し合う。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所契約時は契約内容を説明し常用事項説明書や各項目毎に読み理解して頂き最後に記名捺印をして頂く。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	常日頃から家族とのコミュニケーションがとれるよう交流を図り意見や要望を話せるような環境作りをしている。	家族の来訪が多く、積極的に話を聞くようにしている。家族の意見や要望から、玄関の飾りつけを工夫して雰囲気を変えたり、居室の換気扇の点検を行ったりと迅速に対応して意見を反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常の問題点などを連絡ノートに記入し全職員で共有し解決に取り組んでいる。	日々の申し送りや連絡ノートで出された意見は会議で検討して運営に反映させている。お花見、誕生会等の行事食やおやつ作りのメニューは利用者と職員の意見を聞いて、美味しいものを楽しんでもらっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務時間等、職員都合になるべく合わせ考慮している。社員、パート共に年2回の賞与や経営状況により臨時賞与の支給をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員間の介護に関する情報提供の連絡を密に行う。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の施設の方と交流を交えて意見交換を行う。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族、本人の要望を傾聴し可能な限り応えられるようにして安心して生活ができるように支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の困っている事や悩んでいる事の内容を傾聴し家族との信頼関係構築に努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人及び家族が求めていることに可能な限り対応し不安のない暮らしができるように支援する。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家族同様の関係を構築し信頼関係も築く。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族となんでも話せるように信頼関係を築き家族が悩むことがないように支える。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が今まで大切にしてきた人や物、場所など継続して交流等できるように支援する。	家族や知人の来訪を歓迎している。家族と共に別施設に入所中のご主人に会いに行ったり、職員同行で以前住んでいた家を見に行ったりしている。郵便物や電話の取次ぎも行い、関係継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士、コミュニケーションを図れるように支援し、レクリエーションも全員参加できる雰囲気を作る。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族及び本人から連絡等あった場合は相談に応じています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人及び家族にサービス計画書を作成する際に要望を聞きそれに合わせたサービス計画書を作成している。	職員は利用者の入居時の情報を周知し、日頃から困っている事はないか、やって欲しい事はないかと話をよく聞き、思いや意向を共有している。言葉が困難な方にはしぐさや表情から気持ちを汲み取っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所相談の際に過去の人生歴や生活環境等をアセスメントにより把握し生活指導をすすめる。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	無理のないように本人が可能な事のお手伝いや歌、散歩、行事を行い心身機能維持向上に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	居室担当を割り振り、日常生活を把握し会議にて皆で情報共有しより良い介護を実践する。	利用者の日常の様子を基に担当者会議を行い、家族の意見も取り入れた最善のプランを作成するようにしている。自宅とは違う生活環境の中で利用者にゆったりと楽しく生活してもらうことを念頭に置いている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に日中、夜間の様子を記録し職員間で状況を把握し共有し介護計画に役立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外出、外食等施設内のサービスに捉われない変化に富んだ生活をして頂くよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣に公園墓地があり天気の日には散歩に行き畑作業の方やお寺の参拝をしたり参拝者の方と交流を楽しむ。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前のかかりつけ医へ継続的に受診希望があればそのまま受診して頂き、変更可能なら当施設の主治医に情報提供してもらい変更します。	月2回の内科と歯科の訪問診療を受けている。夜間緊急時には提携病院に連絡して当直医の指示を仰ぐことになっている。他科受診は原則家族同行だが、困難な場合には職員が同行している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	緊急や急変等の場合は、看護師へ連絡し指示を頂き必要に応じ主治医の受診をする。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	常に協力医療機関と連絡を密にし急変等の場合に入院できるように関係構築している。また情報交換にも努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した利用者な場合は家族と話し合いを持ち施設と家族の協力体制を作っており家族の意向も配慮し情報提供を行う。	家族へは入居時に事業所としての指針を説明し、了承を得ている。重度化した場合には家族、医師、看護師でよく話し合い、医療機関への入院を検討する。これからもできるだけ家族の意向が反映されるように話し合いを重視している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時や急変時には緊急対応策を全職員ができるよう周知徹底をする。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練を実施し自治会の方の参加もあり防災に関する意識を高める。	年2回近隣の方にも声掛けをして避難訓練を実施している。市からはハザードマップでの避難経路指導を受けている。運営推進会議では災害時における地域の方々の協力を自治会長や民生委員にお願いしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者は9人入所しており一人一人生き方や暮らし方が異なるのでその人に合ったその人らしく過ごせるように言葉かけや生活指導に努めている。	個人ファイルは事務所で保管し、パソコンは限られた人のみが使用している。トイレ誘導時は他の人に分からないように声掛けをし、入浴時に人に見られずに一人で入りたい方にはそっと見守る支援をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中でその人らしく利用者本位に物事を考え可能な範囲で自己決定できるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人に合ったペースで日常生活をして頂いている。無理やり強制は行わない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に散髪も定期的に来て頂き、着替えは利用者の希望に沿って衣類の選択をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者が食べたい物を取り入れ、衛生上の問題もあるので片付けのお手伝いをお願いをしている。	食材をまとめて購入し、3食職員が調理している。利用者の希望を取り入れた季節感のあるメニューを提供している。外食は車椅子可能な店を選び楽しんでもらっている。お正月料理、誕生会ケーキも好評である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養が偏らないように考慮しており、個別に食事量や水分量をチェックしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを援助し清潔を保持している。必要に応じ訪問歯科も来ているので受診する。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間でのトイレ誘導や定期的なトイレ誘導を行ないトイレでの排泄を促しパッド等を汚さないように支援している。	排泄チェック表から利用者個々のタイミングを知り、トイレ誘導をしている。声掛けはトイレという言葉は使わない工夫をしている。他者の眼を意識している方にはリビングから離れたトイレへ同行している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個別の排泄チェック表を利用し水分や食事等で調節している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は基本的には決めているが本人都合で曜日の変更は可能になっている。足浴も希望に応じ行っている。	週2回、午後の時間に入浴してもらっているが、曜日や時間は利用者の都合で変更可能である。入浴嫌いの方には仲の良い利用者と一緒に入ってもらっている。香りのよい入浴剤や季節のゆず湯は好評である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	13時からお昼休みになり昼寝等をしたり自由に過ごして頂く。別の時間にもお休みをする方もいるのでどちらにしても援助している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬は全て職員管理になっている。毎回服薬援助をし誤薬やの忘れがないようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その人に合った役割をして頂く。洗濯干し、洗濯たたみ、モップ掃除など行なっている。買い物にも行き欲しい物を買って気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族に協力を頂き年に数回に外泊や外出に行ったり個別の買い物、全員での外出等の支援をしている。	天候の良い季節には近隣のお寺や季節の花を見に外出している。外出できない方には玄関前や中庭のベンチで外気浴をもらっている。家族同行で墓参りや自宅外泊をする方もいる。ユニット全員でのレストランでの外食は利用者に好評である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族からお小遣いとしてお金を預かり施設管理をしている。生活保護受給の方は全額施設管理をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも電話はできるようになっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	外の景色や、明るさ、室内の温度調節をしている。	明るく広いリビングの他に、庭につながる居室前のフロアも利用者の憩いの場所である。それぞれテーブル、ソファ、テレビが置かれている。庭にはウッドデッキと人工芝が敷かれており利用者が安全に利用できるような工夫がされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室があり、ドアも締まり一人の空間も作れるようになっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使用していた物や、馴染みのある物を持参して頂き自由に使えるようになっている。	エアコン、ベッド、照明、カーテン、タンスの他は、利用者が使い慣れたものを自由に持ち込んでいる。家族の写真や好きな絵を飾り、折り紙細工をしたりと自宅での生活を継続できるように支援をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレ、ホールに手すりを設置している。出来る力を使ってもらえる様に見守りをしている。		